

蓮ヶ池横穴群

保存整備事業概報Ⅰ

(昭和60年度計測調査概報)

1986

宮崎市教育委員会



史跡蓮ヶ池横穴群航空写真

序

宮崎市では市制60周年の記念事業としまして、史跡速ヶ池横穴群の保存環境整備事業を昭和59年に決定し、事業遂行のための諸準備を進めてきたところでございます。

当該地では、昭和40年初頭に岡地造成計画が起り、44年、県によって緊急発掘調査が実施され、46年7月17日に国の史跡に指定されております。

44年の発掘調査では、玄室及び羨道部の調査に主点がおかれており、墓道及び前庭部の調査に未了の部分が見受けられるため、今回の横穴群の保存環境整備事業に先立ち、計測調査を実施したものであります。

横穴墓は、61年3月現在で71基を確認しており、今後保存整備事業が進むなかでその数は増してくるものと思われれます。

速ヶ池横穴群保存整備の目的は、横穴の適切な保存を図りながら、しかも市民のための学習の場、憩いの場として、また市域における緑の拠点とするものであります。

保存環境整備事業につきましては、ようやくスタートに替いたところでありまして、今後年次計画をもって事業を進めることとなりますが、保存整備事業の初年度にあたり、その調査成果を本概報として刊行するものであります。

本書が当該事業の資料として、また埋蔵文化財保護の一助となれば幸甚です。なお、計測調査にあたり、貴重なご指導ご助言をいただきました先生方、ならびに作業に従事いただいた方々に感謝いたします。

昭和61年3月

宮崎市教育委員会

教育長 柚木崎 敏

例 言

1. 本書は、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業にかかる、横穴群の事前計測調査記録の概報である。
2. 計測調査は、昭和60年度に国庫補助・県費補助を受けて、昭和61年1月22日から同年2月28日までの期間で、宮崎市教育委員会が実施した。
3. 調査組織はつぎのとおりである。

調査主体	宮崎市教育委員会			
調査員	社会教育課	嘱	託	伊 東 但
	"	"		荒 武 胤 子
調査総括	"	主	査	野 間 重 孝
調査補助	別府大学	学	生 的	場 丈 明
横穴保存工指導	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部			
	遺物処理研究室	室	長	沢 田 正 昭
	"	文 部 技 官		肥 塚 隆 保
保存環境整備指導	奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部			
	保存工学研究室	室	長	安 原 啓 示
事務局	宮崎教育委員会	教 育 長		柚 木 崎 敏
		教 育 局 長		銚 原 啓 次
		社 会 教 育 課 長		緒 方 美 利
		課 長 補 佐		曾 我 嘉 徳

4. 本概報の執筆は、Ⅰ、Ⅱは野間、Ⅲ、Ⅳは伊東が行った。
5. 掲載した図面の実測、製図、及び図版の作成は、伊東、荒武、的場が分担して当った。
6. 写真撮影は、伊東 但が行った。
7. 横穴墓の保存にかかる事前の調査及び発掘方法について、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部遺物処理室、沢田正昭室長、肥塚隆保文部技官に、5日間にわたって指導助言をいただいた。
8. 保存環境整備事業について、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部保存工学室、安原啓示室長に指導助言をいただいた。
9. 本概報の編集は、野間重孝、伊東 但が主となって行った。

目 次

I	位置と環境	1
II	調査の経過	1
	1. 史跡運ヶ池横穴群にかかる経緯	1
	2. 調査の経過	1
III	各横穴の概要	4
	第1集団	4
	1. Aグループ(2号・3号・4号・5号・22号)	4
	1-1 2号横穴	6
	1-2 3号横穴	8
	1-3 4号横穴	10
	1-4 22号横穴	12
	2. Bグループ(6号・7号・8号)	12
	2-1 6号横穴	14
	2-2 7号横穴	16
	2-3 8号横穴	18
	3. Cグループ(9号・10号・11号)	20
	3-1 9号横穴	22
	3-2 10号横穴	24
	3-3 11号横穴	26
	4. 12号横穴	29
	5. 52号横穴	33
IV	ま と め	36

插 图 目 次

第 1 图	史跡蓮ヶ池横穴群位置图.....	2
第 2 图	22号, 2号, 3号, 4号, 5号横穴周辺地形图.....	5
第 3 图	2号横穴実測图.....	7
第 4 图	3号横穴実測图.....	9
第 5 图	4号横穴実測图.....	11
第 6 图	6号, 7号, 8号横穴周辺地形图.....	13
第 7 图	6号横穴実測图.....	15
第 8 图	7号横穴実測图.....	17
第 9 图	8号横穴実測图.....	19
第 10 图	9号, 10号, 11号横穴周辺地形图.....	21
第 11 图	9号横穴実測图.....	23
第 12 图	10号横穴実測图.....	25
第 13 图	11号横穴実測图.....	27
第 14 图	12号横穴周辺地形图.....	28
第 15 图	12号横穴実測图.....	31
第 16 图	52号横穴周辺地形图.....	33
第 17 图	52号横穴実測图.....	35
第 18 图	史跡蓮ヶ池横穴群地形图.....	37
第 19 图	史跡蓮ヶ池横穴群分布图(1).....	39
第 20 图	史跡蓮ヶ池横穴群分布图(2).....	41

図 版 目 次

図版 1	発掘調査風景	3
図版 2	第1集団Aグループ(2号, 3号, 4号)全景	4
図版 3	2号横穴全景	6
図版 4	2号横穴内部構造	6
図版 5	3号横穴全景	8
図版 6	3号横穴内部構造	8
図版 7	4号横穴全景	10
図版 8	4号横穴内部構造	10
図版 9	22号横穴確認状況	12
図版 10	第1集団Bグループ(6号, 7号, 8号)全景	12
図版 11	6号横穴全景	14
図版 12	6号横穴内部構造	14
図版 13	7号横穴全景	16
図版 14	7号横穴内部構造	16
図版 15	8号横穴全景	18
図版 16	8号横穴内部構造	18
図版 17	第1集団Cグループ(9号, 10号, 11号)全景	20
図版 18	9号横穴全景	22
図版 19	9号横穴内部構造	22
図版 20	10号横穴全景	24
図版 21	10号横穴内部構造	24
図版 22	11号横穴全景	26
図版 23	11号横穴内部構造	26
図版 24	12号横穴全景(閉塞状況)	29
図版 25	12号横穴前室内部構造	30
図版 26	12号横穴奥室内部構造	30
図版 27	52号横穴全景	34
図版 28	52号横穴閉塞状況	34
図版 29	52号横穴内部構造	34

I 位置と環境

史跡蓮ヶ池横穴群は、市街地の北部、宮崎市大字芳土字岩永辺に所在し、この一帯は通称「蓮ヶ池」と呼称されているところで、国道10号線と国鉄日豊本線に挟まれた、東西1km、南北1.3kmの沖積平野に突き出している丘陵地である。

この丘陵地は、中池・田池によって2分されており、北側丘陵の分水嶺より南側部が国の史跡として指定されている。この指定地内は、西側に稲荷池そして湿地の谷間、それに御取訪池と南北に入り込む谷間と、それぞれに延び出す丘陵で形成されており、この斜面に横穴の分布が見受けられ、現在まで71基の横穴を確認している。

稲荷池の東側丘陵に第1集団の横穴群が分布しており、南端部の8基（2号～8号、22号）、東側斜面南部の14基（9号～21号、52号）から成っている。

第2集団は、低湿地谷間と御取訪池の間に延び出した丘陵に分布するもので、中間先端部に単独で53号、そして御取訪池西側の丘陵東斜面の16基（23号～39号）と、奥部の51号、34号の単独横穴から成っている。

第3集団は、御取訪池の東側西斜面南部に分布する11基（40号～50号）の横穴から成っている。

第4集団は、御取訪池の東側丘陵西側斜面の奥部に分布する14基（55号～68号）と、少し離れた54号の単独横穴から成っている。

その他に、稲荷池奥部の指定地外の1基と、新たに発見された3基の横穴が確認されており、今後環境整備事業を進めるなかで、新たな横穴の発見も予想される。

II 調査の経過

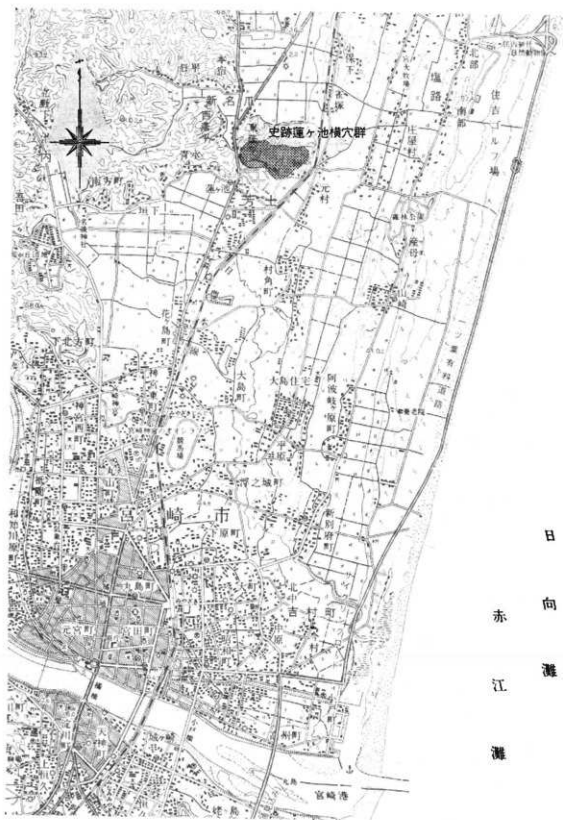
1. 史跡蓮ヶ池横穴群にかかる経緯

昭和44年県教育委員会によって国庫補助を受け、5月12日から6月1日まで緊急発掘調査を実施し、44基の横穴を発掘調査している。45年6月22日には、都市計画法による第1種風致地区に指定され、46年7月17日に国の史跡指定を受けている。47年から50年にかけては指定地の公有化を図り横穴群の保存に努めてきた。59年4月、市制60周年記念事業として、史跡蓮ヶ池横穴群保存環境整備事業を推進していくこととなり、基本構想の策定を行ない60年には基本設計を策定している。かかる事業に伴う横穴の保存法を策定するため、横穴の計測調査に着手したものであり、今年度は第1次調査を行ない、今後年次的に計測調査を実施していく予定である。

2. 調査の経過

前庭部等の発掘調査を61年1月22日から2月28日まで行ない、その後横穴の実測を継続して行った。

調査対象横穴は、稲荷池東側丘陵に分布する第1集団のAグループ（2、3、4号）、



日向川
赤江灣

Bグループ（6，7，8号），それにCグループ（9，10，11号），Cグループの中でもやや単独に離れている12号，52号横穴の11基とした。

これらの横穴は，44年の緊急発掘調査において調査がなされたものであるが，当時は玄室内部及び羨道部の調査にとどまっていたため，保存整備に先だって，あらためて前庭を含めた発掘調査を実施したものである。

調査は，先ず9，10，11号の前庭部から着手し，前庭部の堆積状況を確認する意味から，南北，東西セクションを残す形で調査を進め，その後6，7，8号と，12号，52号に進み最後に2，3，4号の調査を行ない，それぞれの横穴において墓道及び前庭部の状況が明らかになっていった。また，横穴の構造については，新たに20分の1の縮尺で実測図を作成し終了した。



図版1 発掘調査風景

III 各横穴の概要

第1集団

蓮ヶ池横穴群は、大きく5つの集団に分けられることは前述のとおりである。第1集団は指定区域の西側にあたり、稲荷池の東側から南に延びだす丘陵部に分布する横穴群であり、2号～5号、22号のAグループ、6号～8号のBグループ、9号～11号のCグループ、Cグループに接してはいるが、横穴の規模性格からして単独的な要素をもつ12号、52号の横穴、また、奥部にいたって13号～15号のDグループ、16号～21号のEグループにグループングすることができる。

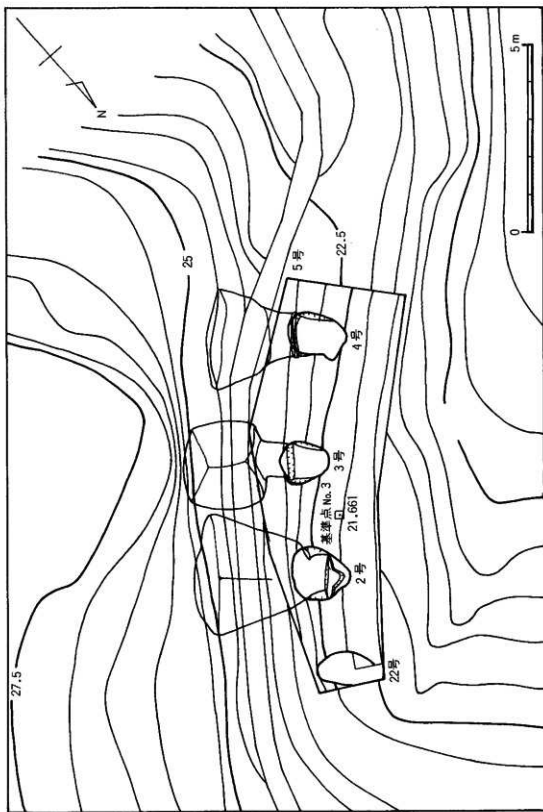
60年度の調査では、A、B、Cグループ及び12号、52号の横穴を対象に調査し、D、Eグループについては今回の調査対象から除外した。

1. Aグループ（2号、3号、4号、5号、22号）

稲荷池の東側丘陵の先端部、西側斜面に開口する横穴群であり5基が並列する。これらは西側（国道10号線）より史跡地内に進入する際、最初に眼前に表われる横穴である。2、3、4号横穴については、昭和44年に発掘調査が行なわれており、5号については道路下に羨道部及び玄室天井部が陥没しており、未調査横穴となっている。また、22号横穴は近年新たに発見された横穴である。



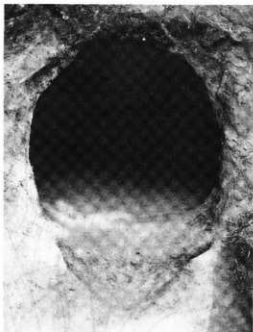
図版2 第1集団Aグループ（2号・3号・4号）全景



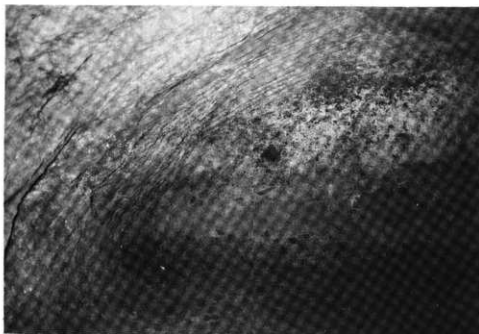
第2图 22号·2号·3号·4号·5号横穴周边地形图

1-1 2号横穴

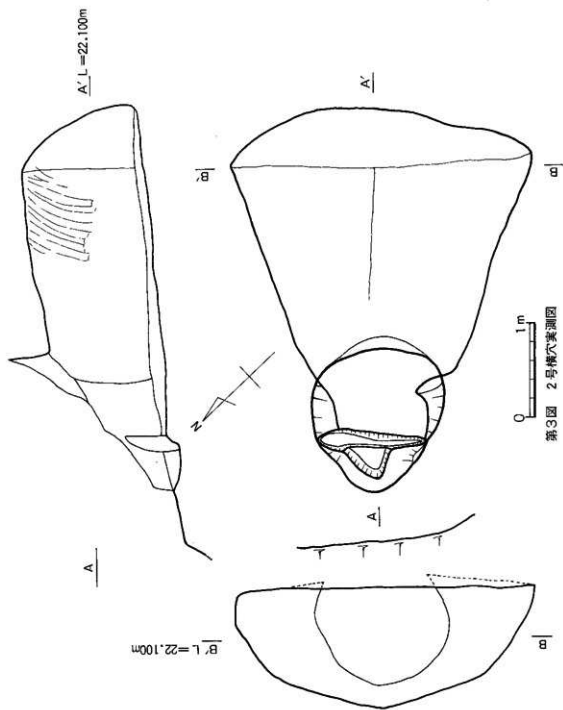
Aグループ5基の内、北から2番目の横穴で、急斜面の岩盤に、主軸をE-43°-Sに取り、羨道から掘り込まれている。羨道部は幅約1m、全長約1mを計るが天井は持たず、岩盤下に入るのは玄室のみである。羨道と玄室との区分は明確さを欠き、そのまま台形の平面形を持った玄室に至る。玄室入口部幅約1.5m、奥壁部約3.1m、最大高を奥壁との境に持ち約1.3mを計る。奥壁との境に明瞭な稜を持ち、天井に棟を持つが、入口付近でドーム形となって消滅する。側壁の一部に整形時の工具痕を残し、後世の加工痕は見あたらない。玄室床面の標高は約21.5mである。また、羨道部の入口付近に約20cmの段差を持つ溝が掘られ側壁の高さ約50cmぐらいまで連続している。



図版3 2号横穴全景



図版4 2号横穴内部構造



第3图 2号横穴墓测图

1-2 3号横穴

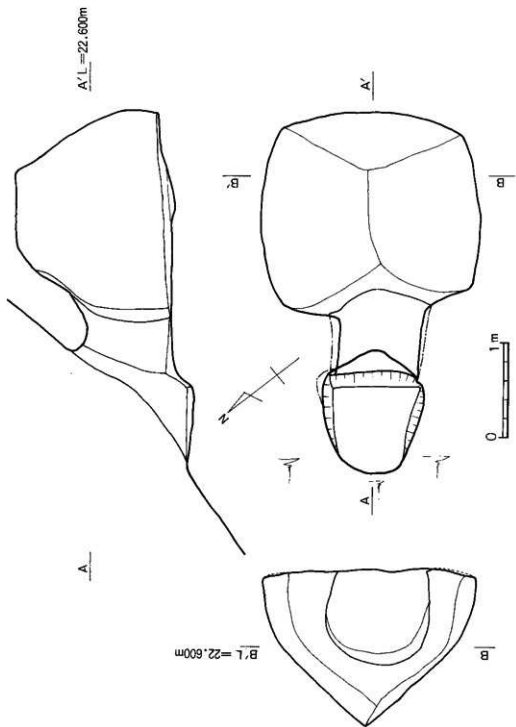
Aグループ5基の内、北から3番目に位置する横穴で、岩盤の斜面に羨道より掘り込まれており、主軸をE-38°-Sに取る。羨道は幅約80cm、長さ約1.7m、天井高約90cmを計るが、途中に高さ20cmの段差を持って玄室に至るものである。羨道と玄室との区分は明確で、玄室は全長約2m、入口部幅約2m、奥壁部幅約2mの丸みをおびた正方形の平面形である。高さ約1.6mを計る天井には棟を持ち、寄棟造りの形態である。後世の加工痕も見あたらず、崩落もほとんどない。他の横穴にはよく見られる整形痕は、本横穴には見られない。床面の標高は約21.8mである。



図版5 3号横穴全景



図版6 3号横穴内部構造



第4图 3号横穴式洞窟

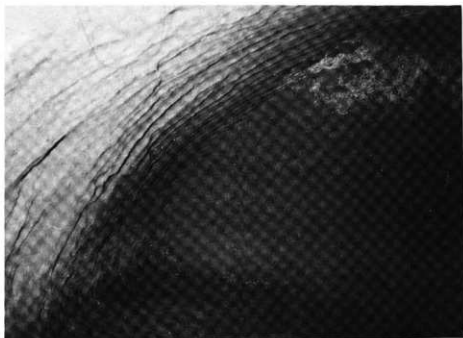
1-3 4号横穴

Aグループ5基の内、北から4番目に位置する横穴で、3、4号横穴と同様、岩盤斜面に羨道より掘り込まれ、主軸をE-38°-Sに取る。羨道は幅約1.2m、長さ約2m、高さ約1mを計り、床面標高約22mで玄室に至るが、その区分は明確ではない。また、羨道の間ほどに幅約12cm、深さ約5cm程の溝が横に走り、そのまま壁の高さ約20cmぐらいまで続いている。

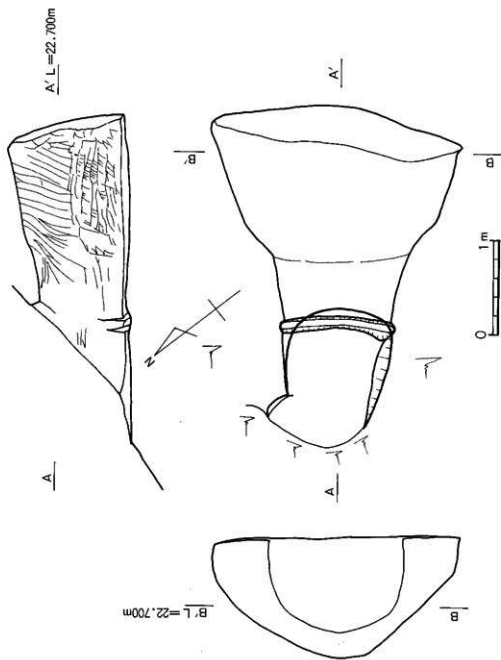
玄室の平面形は台形をなし、入口部幅約1.5m、奥室部幅約2.5m、天井は奥壁との境に最大高を持ち約1.3mを計るが、明瞭な棟は持たない。形態的には2号に近いものである。この4号横穴の壁面には明瞭に整形痕が残存しており、床面より約50cm程までは横方向にそれ以上は縦方向に削った様子が良く残っている。



図版7 4号横穴全景



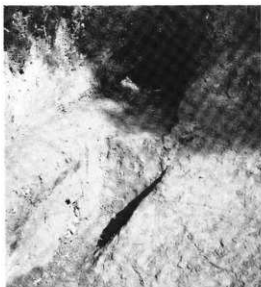
図版8 4号横穴内部構造



第5图 4号铜穴案测图

1-4 22号横穴（未調査）

Aグループ中の北端、稲荷池の堤体近くに位置し、今回新たに発見された横穴である。2、3、4、5号横穴と並列はするものの開口位置は一段低くなっている。玄室内部は、天井近くまで土砂で埋没しているが、壁面より天井にかけて、整形痕が確認出来る。残存状態は良好の横穴であるが、今回の調査は見送る事とした。



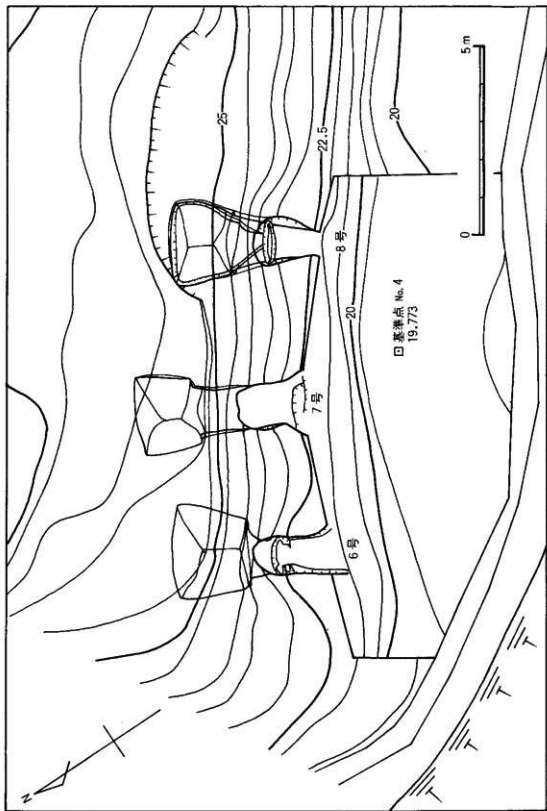
図版9 22号横穴確認状況

2. Bグループ（6号、7号、8号）

Aグループに少々離れて、丘陵先端部南斜面に3基が開口する。横穴は斜面の中腹に位置し、基盤となる岩層が急傾斜となっているため、前庭部を欠き直接羨道部から玄室部への構造を成している。



図版10 第1集団Bグループ（6号・7号・8号）全景



第6图 6号·7号·8号横穴周边地形图

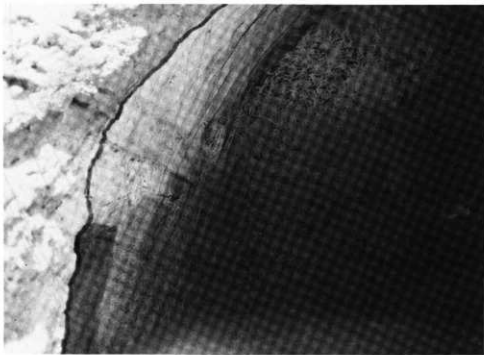
2-1 6号横穴

Bグループ3基の西側に位置する横穴で、
玄室床面の標高は約22.0mで主軸方向は、
N-42°-Eである。幅約1.0m、長さ約
1.1mの羨道を持つ。

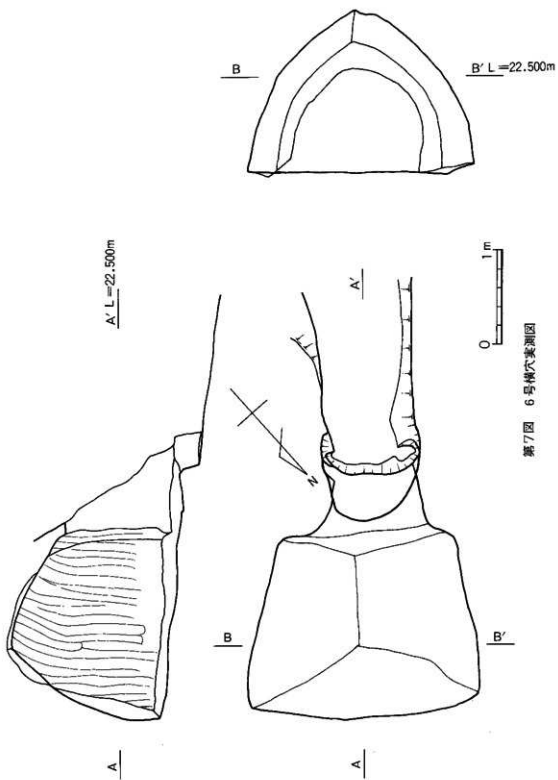
玄室の全長は、約1.9m、入口部の床面
幅約1.7m、奥壁の床面幅（最大床面幅）
は約2.4m、天井高約1.7mを計る。形態
は寄棟造りで、奥壁・側壁に整形時の工具
痕が比較的明瞭に残っている。



図版11 6号横穴全景



図版12 6号横穴内部構造



第7图 6号井穴实测图

2-2 7号横穴

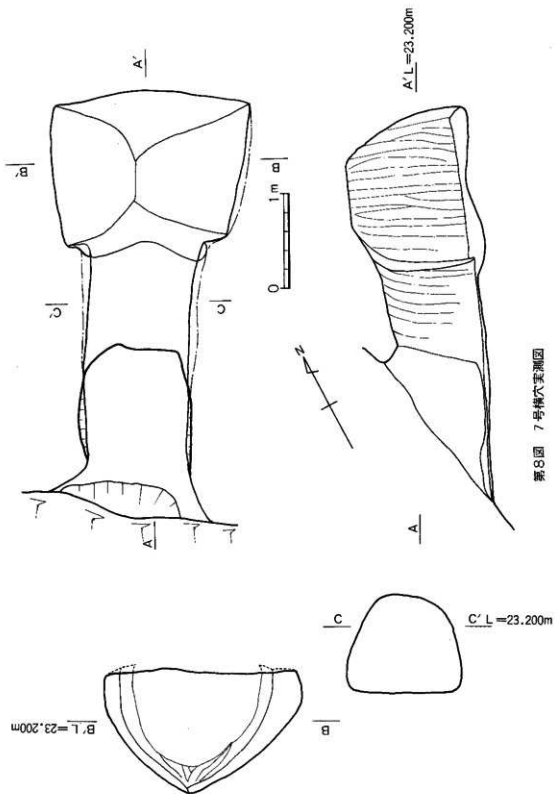
3基並列するBグループの中央に位置する横穴で、岩盤斜面の中腹に羨道より掘り込まれており、羨道は幅約1.1m、高さ約1m、長さは約2.9mにも及ぶ長いものである。羨道と玄室との境は明確に区分され、玄室は床面標高約22.6m、全長約1.6m、入口部幅約1.7m、奥壁部幅約2.1m、高さ約1.3mを計り、主軸をN-25°-Eに取る。平面形は正方形に近く、形態的には寄棟造りとなっている。また、羨道中間付近より床面は、ゆるやかに約10°の傾斜を持つてのぼっており、羨道から玄室にかけての壁面には明瞭に整形痕を残している。



図版13 7号横穴全景



図版14 7号横穴内部構造



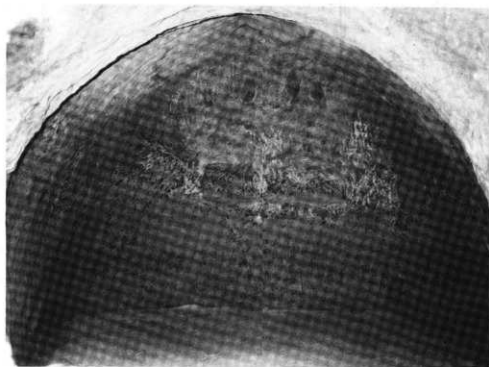
第8图 7号井穴实测图

2-3 8号横穴

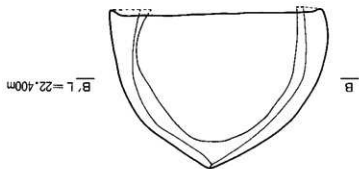
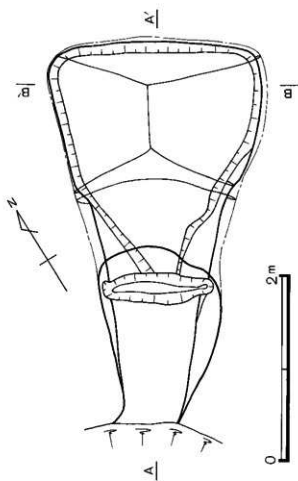
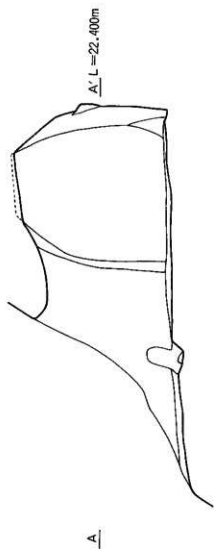
Bグループ3基の東側に位置し、昭和44年の調査時に椀、杯、金環等の出土が報告されている横穴で、平面形は楕形を呈する。6、7号横穴同様、斜面中腹に羨道より掘り込まれており、羨道は幅約80cm、高さ約1.3m、長さ約2.4mを計り、玄室に至る。羨道と玄室との境は明確さを欠き、玄室は全長約1.7m、入口部床面幅約1.7m、奥壁部幅約2.2m、高さ約1.6mを計る。形態的には寄棟造りで、比較的羨道・玄室ともに天井の高い横穴と言える。羨道の入口に側壁にまで続く幅約30cm、深さ約14cmの溝を持ち、この溝につながる形で玄室床面の周囲に幅約10cmの溝がめぐっている。床面の標高は約21.7mで、主軸をN-33°-Eに取る。



図版15 8号横穴全景



図版16 8号横穴内部構造



第9图 8号棉穴实测图

3. Cグループ (9号, 10号, 11号)

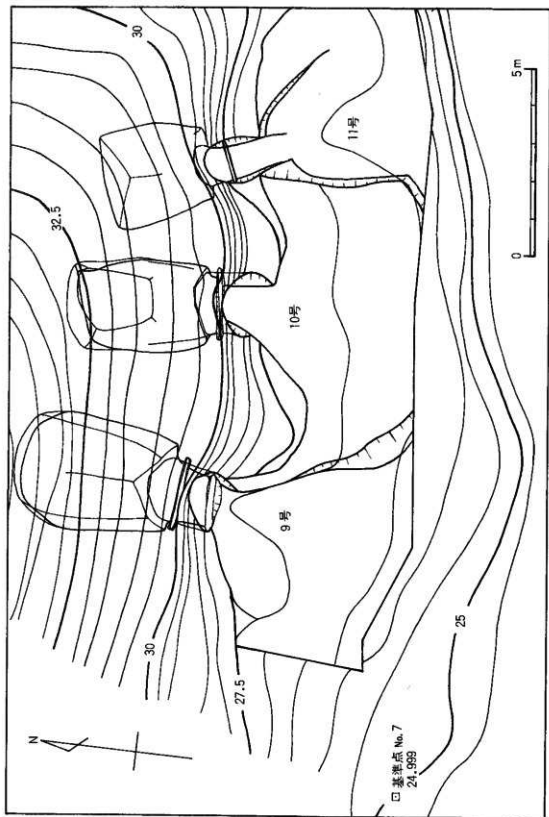
第1集団の散在する丘陵の東側の斜面中腹に位置し、標高26 m付近に近接して並列する9, 10, 11号の3基をもって形成される。今回、昭和44年次に未調査であったこのCグループ前の平坦部の調査を行った結果、両端の9号及び11号横穴前において羨道入口より扇状に岩盤に切り込んだ前庭部が確認されたが、中央の10号横穴前では平坦部は持っもののカッチングは見られなかった。

このCグループの横穴も他同様、戦中、戦後を通じて住居に使用されており、確認された前庭部の埋積土中、下層まで当時の雑器類が含まれており、横穴構築時の前庭部である確証はつかみ得なかった。しかし、この前庭部埋積土の最下層で見受けられる薄い黒色土層は、近接する52号の前斜面及び12号の墓道や羨道入口部の最下層にも見られるものであり、この層までの攪乱はなかったものと思われる。

また、このCグループの横穴の羨道部には、他の横穴に見られる溝状の掘り込みの他に羨道の壁から天井部にまで至る間に、閉塞袖を想定される溝状の掘り込みや玄室の壁面に方形の掘り込みが見られるが、これらは、明らかに工具痕が異なっており、後世の改造によるものと思われる。



図版17 第一集団Cグループ (9号・10号・11号) 全景



第10图 9号·10号·11号坑穴周边地形图

3-1 9号横穴

第1集団Cグループを形成する3基の南側に位置し、玄室床面の標高は約26.3mで主軸をN-6.5°-Eにとる。約1.8mの羨道をもち明確に区分され玄室に至る。玄室は現全長約4.2m、入口部幅約2.2m、奥壁部幅約3m、最大高約2.1mを計るが、入口より約3mから先は後世の拡張が行なわれており、当初の全長及び加工部分の形態は不明である。現存する部分において推定すると、この玄室は四柱を持つ寄棟造りの形態であり、明瞭な稜を持ち、整形時の装飾的とも言える工具痕を残している。

羨道部の入口付近は崩壊が著しく、他の横穴にも見られる底面の横溝の他に、後世の改造による溝が底面から壁、天井にかけて掘られている。また、この羨道の天井は幅約50cmの平坦面を持って整形されている。

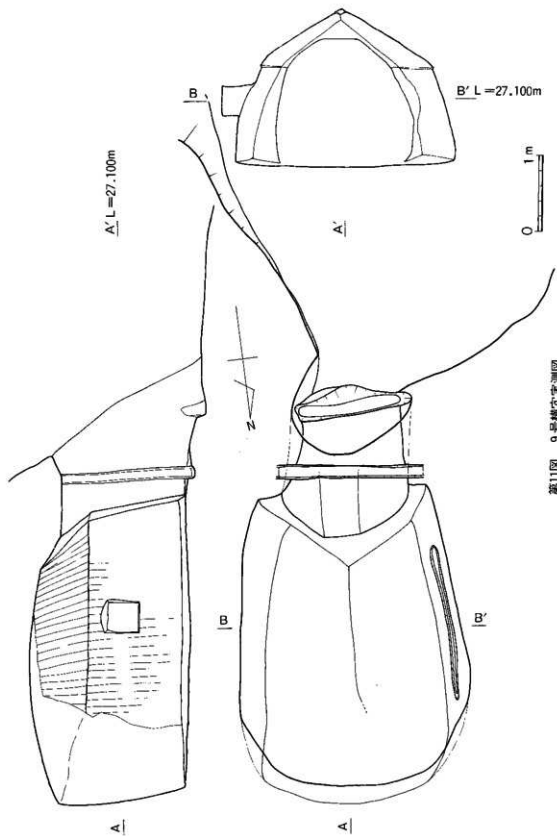
今回、確認された前底部は、羨道入口より長さ約4.5m、最大幅約5m、深さ約20cmの扇状に岩盤を切って、平坦部を造り出しているものであるが、底面からの遺物の出土は皆無で



図版18 9号横穴全景



図版19 9号横穴内部構造



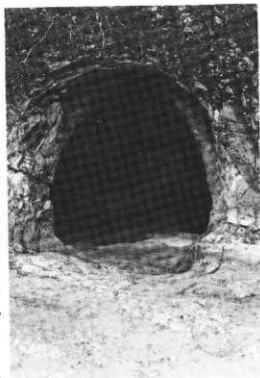
第11图 9号横穴墓平面图

3-2 10号横穴

Cグループ3基の中央に位置する横穴で、本横穴前には平坦面が約4mほど存在するが両側の横穴の様なカッティングは見られない。玄室床面の標高は約26.2mで主軸をN-7°-Wに取る。約1.7mの羨道を持ち、明確に区分されて玄室に至る。羨道・玄室とも後世の改造痕や拡張、崩壊が見られる。

玄室の全長、約3.6m、最大床面幅約2.5m、天井高約1.8mを計るが当初から変化のない数値は床面の最大幅のみである。形態的には四柱を持つ寄棟造りと推定出来るが、9号横穴程明瞭な稜は持たず、また、整形工具痕も側壁の一部にかすかに見られる程度である。

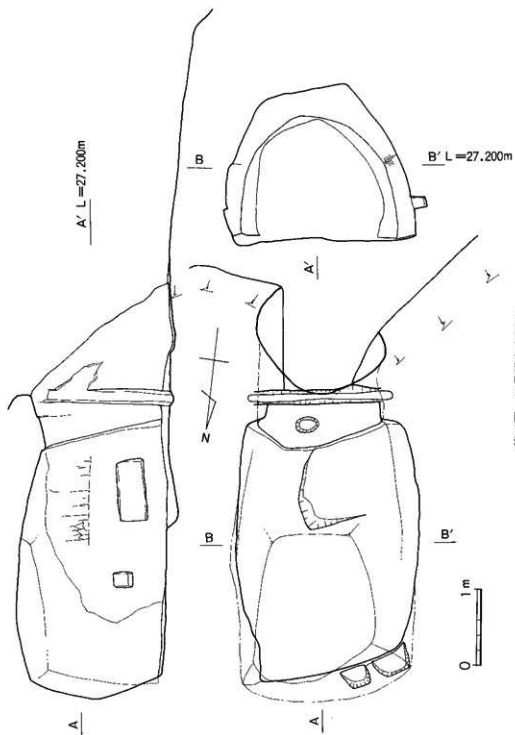
羨道部の崩壊も著しく、また天井までのびる溝状の後世の加工痕も見られる。



図版20 10号横穴全景



図版21 10号横穴内部構造



第12图 10号横穴墓测图

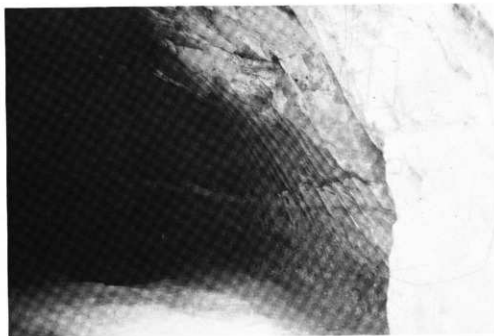
3-3 11号横穴

Cグループ3基の内、東側に位置し玄室床面の標高は9・10号横穴よりわずかに低く約25.8mで主軸をN-19°-Wにとる。長さ約2.5m、最大幅3.5m、深さ約20cmの扇状にカッティングされた前底部を持ち、幅約1.2m、長さ2.2mの羨道を持ち、明確に区分されて玄室に至る。

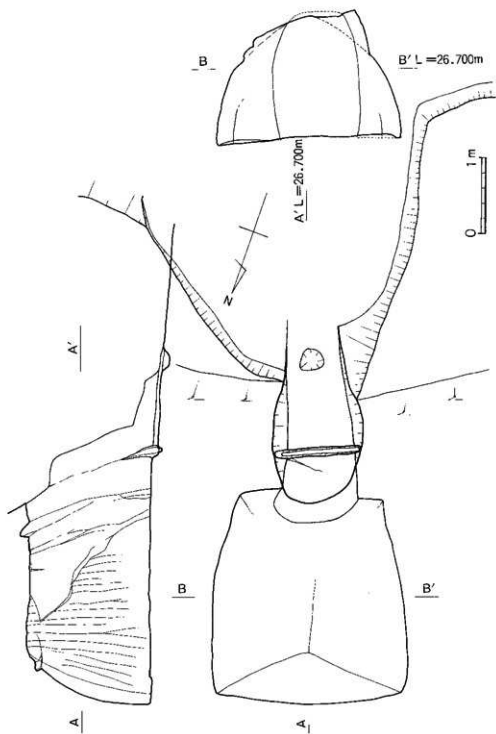
玄室の全長は約2.8m、入口部の床面幅1.9m、奥壁の床面幅約2.5m、高さ約1.6mを計り、9・10号横穴と異り四柱を持たない寄棟造りの形態となっている。羨道の側壁、天井部から玄室前半部にかけて崩落が著しいが、残存部には整形時の工具痕を明瞭に残し、比較的後世の加工は施されていない。



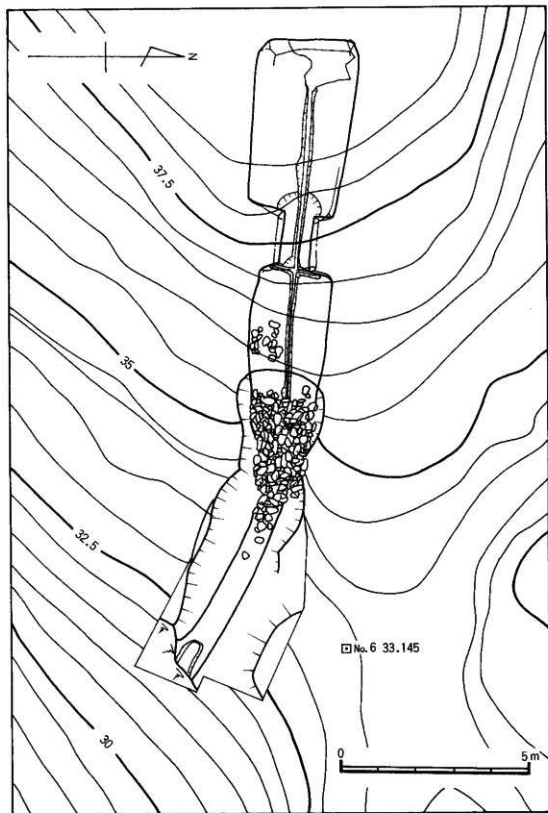
図版22 11号横穴全景



図版23 11号横穴内部構造



第13图 11号林穴墓测图



第14图 12号横穴周边地形图

4. 12号横穴

蓮ヶ池横穴群中、最も高い位置に単独で構築されており、直列して2つの玄室を持つことから最も注目される。

前方後円墳とも言われる丘陵の尾根の頂上付近に、もぐり込むように掘り込まれている横穴である。

今回の調査で、斜面をV字状に切り込んで造られた幅約70cm、長さ約4mの竈道も確認され、人頭大程もある自然隙を用いた閉塞石の残る羨道を経て、前室、奥室羨道、奥室へと続くもので総全長約17mを計る。

羨道から前室前半部天井は落下しており、閉塞石を残しているため羨道の計画値は不明である。

前室の後半部も天井が崩落しているが、現在高は約2m入口部の床面幅約1.7m、奥壁部床面幅約2m、全長約3.5mを計るものである。前室と奥室を結ぶ羨道も天井が崩落し、現在高

は約1.3m、床面幅約80cm、長さ約1.5mで奥室に至っている。奥室も天井が崩落し、現在高は約1.7m、全長約4.5m、入口部床面幅約2.3m、奥壁部床面幅約2.5mを計る。

また、奥室から前室まで中央に排水溝が設けられており、閉塞石まで続いている。奥室の羨道入口にも横方向に溝が施されており、中央の排水溝と交わっている。

全体的に床面は傾斜を持ち、前室入口部での標高は約32m、奥室奥壁部で約33mとなっており、主軸をN-85°-Wに取る。

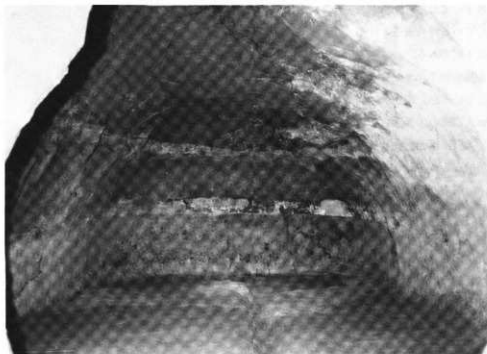
玄室の形態は、四柱を持つ寄棟造りである。



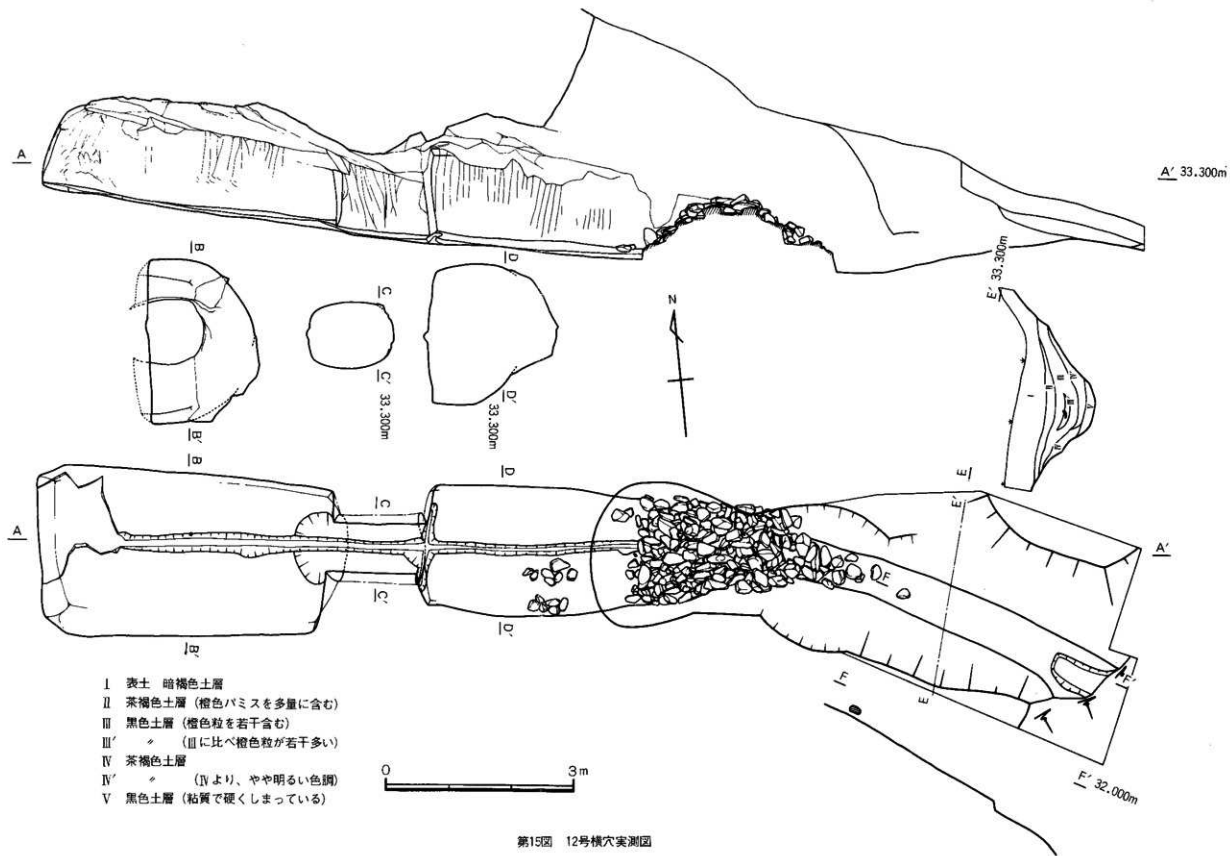
図版24 12号横穴全景（閉塞状況）

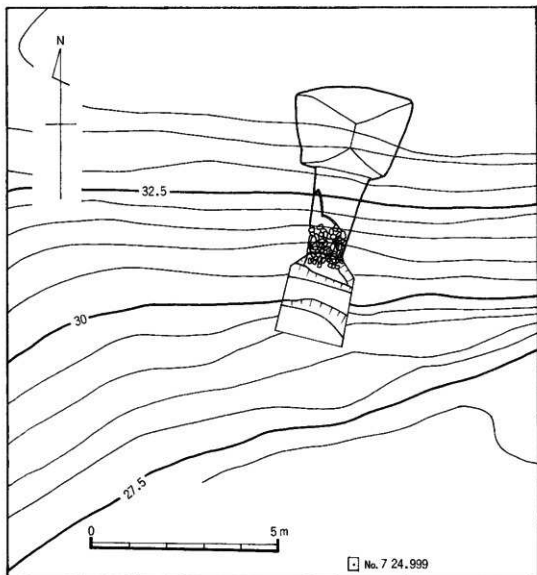


图版25 12号横穴前室内部构造



图版26 12号横穴奥室内部构造





5. 52号横穴

第16図 52号横穴周辺地形図

第1集団中単独の横穴で、9号横穴の南上方の斜面中段に掘り込まれており、昭和44年の調査の際、須恵器の椀、杯、丸玉、切子玉、鏡片等が出土している横穴である。羨道は幅約1.2m、高さ約1m、長さ約2.6mを計り、明確に区分されて玄室に至る。玄室床面の標高は28.5mで全長約2.3m、入口部床面幅約2.1m、奥壁部床面幅約3.1m、高さ約1.8mを計り、寄棟造りの形態で、主軸方向はN-13°-Eである。

羨道から玄室にかけての壁面には、明瞭に整形時の工具痕が残るが、玄室では床面より約60cm付近までは横方向、それ以上は縦方向に行なわれている。

また、本横穴の羨道入口は自然の円礫を用いた閉塞石が残存している。

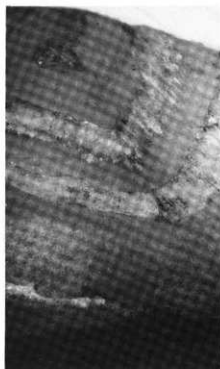
形態的に7号横穴と類似する横穴である。



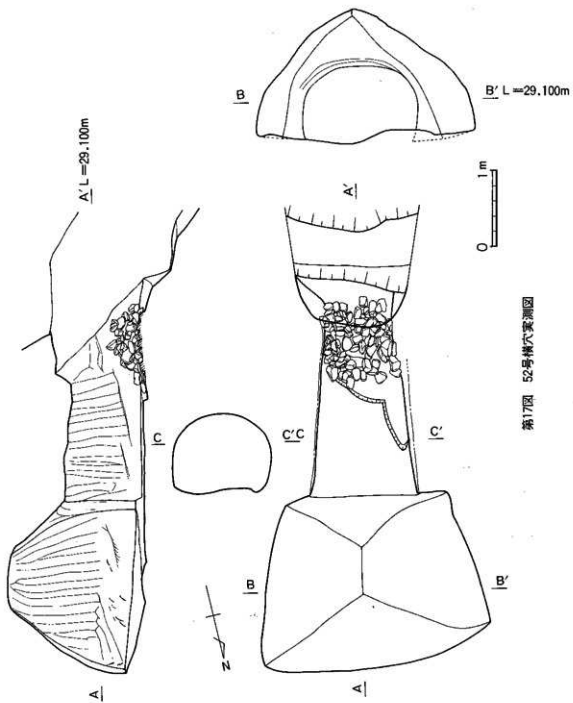
図版27 52号横穴全景



図版28 52号横穴閉塞状況
(玄室内より)



図版29 52号横穴内部構造



第17圖 52号横穴墓測図

IV ま と め

今回、71基確認されている蓮ヶ池横穴群中、11基の横穴について、計測及びその前底部の確認調査を行なったが、12号横穴は墓道を伴い、9・11号横穴には前底部が存在することが確認された。また、各横穴の形態も形式的に分類が可能なのである。横穴形式の分類は昭和44年調査の報告書中において、石川恒太郎氏によって試みられているが、今回は蓮ヶ池横穴群全体の1部分の調査でしかないため、全体的な分類考察は、今後、年次的な調査結果を待って行ないたい。

なお、第1集団における簡単な分類を行なうと次のように分けられる。

● 第I形式

玄室の平面形は長方形で、形態的には四柱を持つ寄棟造りのもの。

羨道との区分が明確である。(9・10号横穴)

● 第II形式

玄室の平面形は正方形に近く、形態的には寄棟造りのもの。(3・7・11・52号横穴)

● 第III形式

玄室の平面形は正方形に近いが、入口部幅が奥壁部幅より狭くなり、寄棟造りで最大高を奥壁との境に持ち、入口に向かって棟が下るもの。(6・8号横穴)

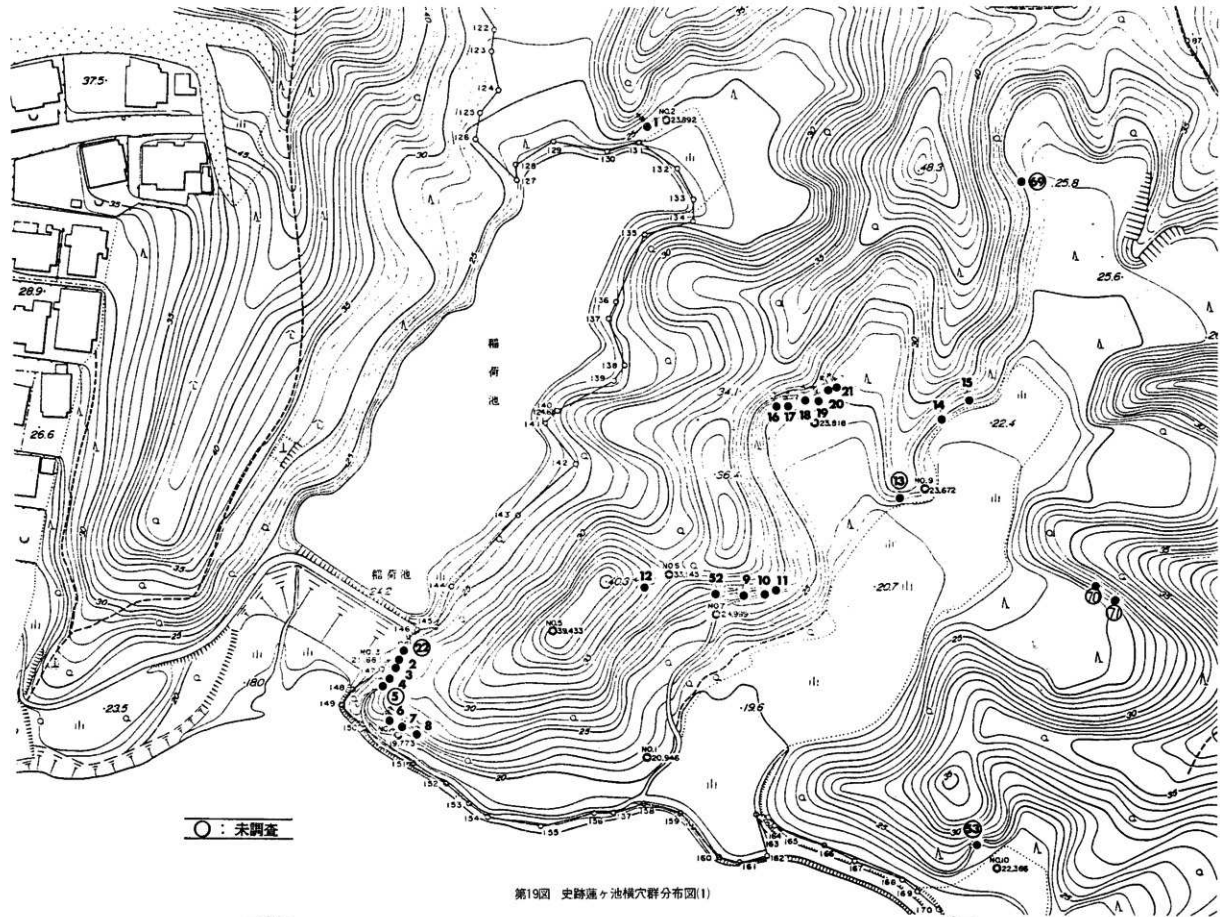
● 第IV形式

奥壁部幅と入口部幅の差が広がり、平面形は台形で寄棟造りと思われるが、最大高は奥壁との境に持ち、入口に向かって棟が下るが明瞭さは無くなり、羨道との区分も明瞭さを欠くもの。(2・4号横穴)

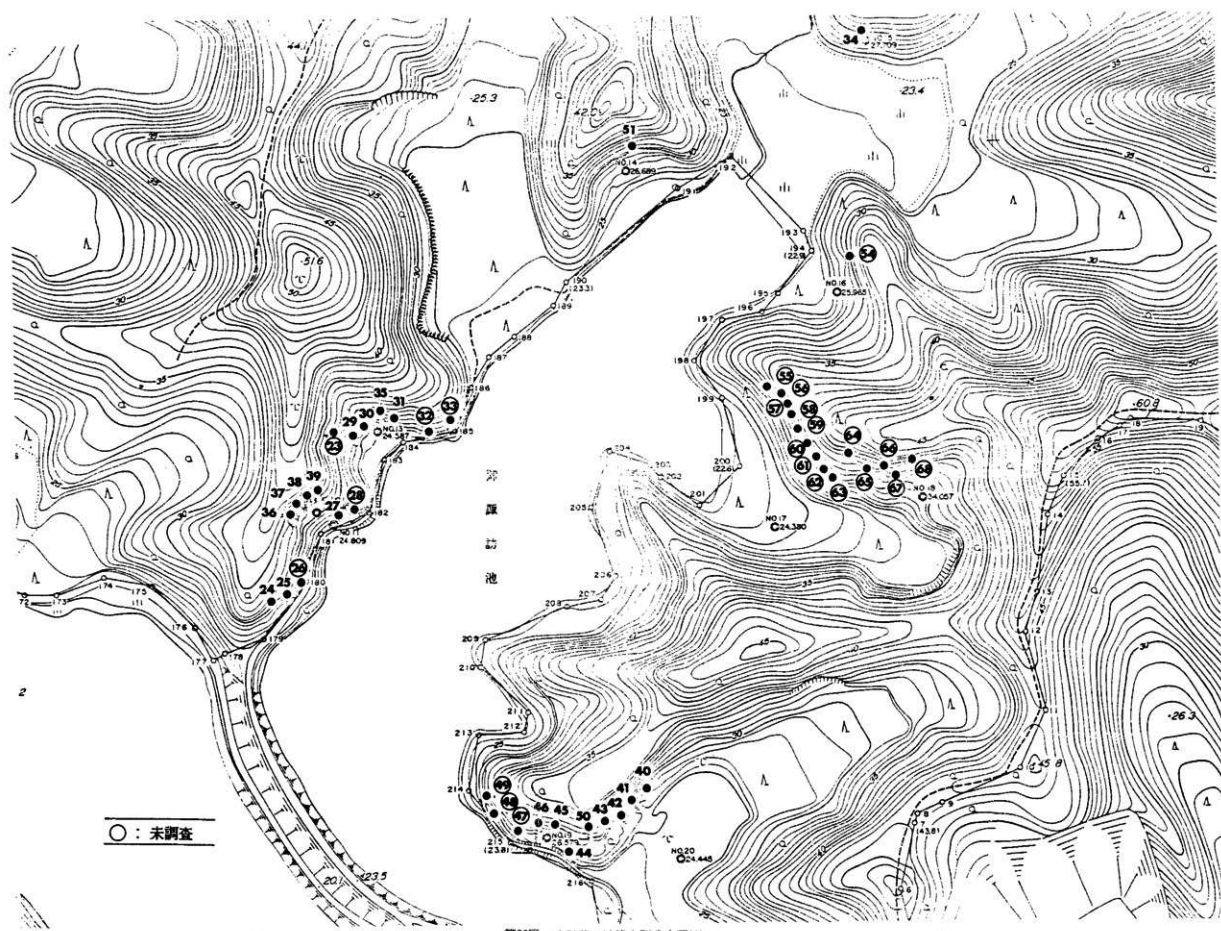
この内、特異な形態を持つ12号横穴も、玄室自体は第I形式の範囲でとらえられると思われる。これらの分類には、どちらともつけがたいといった形態をもつものも存在し、これらの形態の違いは、時間的な変化、として、とらえられるものと思われ、また今後、調査が進むにつれ、新たな形式の増加とともに、各形式間の流れも把握できるものと思われる。

また、各グループ中であっても各形式の混在が見られ、これがどのような意味を持つのか、羨道部の溝状掘り込みと閉塞方法との関連等、今後調査を進めていく際の課題となろう。





第19図 史跡黒ヶ池横穴群分布図(1)



蓮ヶ池横穴群

保存整備事業概報Ⅰ

(昭和60年度計測調査概報)

昭和61年3月31日

編集・発行 宮崎市教育委員会

印刷 合資会社愛文社印刷所

宮崎市高洲町222番地